

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第4区分

【発行日】平成25年6月20日(2013.6.20)

【公表番号】特表2009-526909(P2009-526909A)

【公表日】平成21年7月23日(2009.7.23)

【年通号数】公開・登録公報2009-029

【出願番号】特願2008-554623(P2008-554623)

【国際特許分類】

C 23 G 1/10 (2006.01)

H 01 L 23/29 (2006.01)

H 01 L 23/31 (2006.01)

C 09 J 5/02 (2006.01)

C 23 F 1/18 (2006.01)

【F I】

C 23 G 1/10

H 01 L 23/30 D

H 01 L 23/30 R

C 09 J 5/02

C 23 F 1/18

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年5月2日(2013.5.2)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項1】

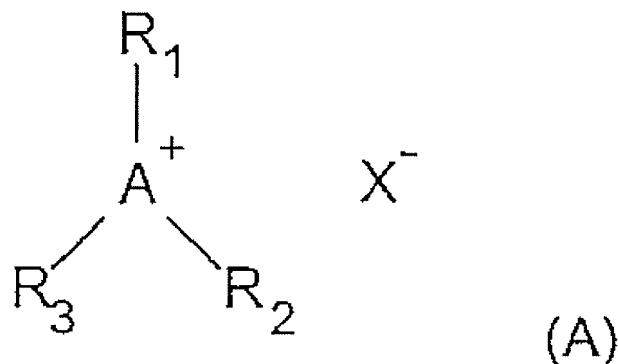
a) 酸化剤、

b) 少なくとも一種の酸

c) トリアゾール、ピラゾール、イミダゾール、テトラゾールおよびプリンよりなる群から選択され、且つ窒素原子を含有し複素環に硫黄、セレンまたはテルル原子のいずれも含まない5員複素環化合物の少なくとも一種と、

スルフィン酸、セレン酸、テルル酸、複素環中に少なくとも一つの硫黄、セレンおよび/またはテルル原子を含む複素環化合物ならびにスルホニウム塩、セレノニウム塩およびテルロニウム塩、ただしこのスルホニウム塩、セレノニウム塩およびテルロニウム塩は、一般式A:

【化1】



ここで、AはS、SeまたはTeであり、R₁、R₂およびR₃はアルキル、置換アルキル、アルケニル、フェニル、置換フェニル、ベンジル、シクロアルキルおよび置換シクロアルキルであり、R₁、R₂およびR₃は同じであっても相違していてもよく、そしてX⁻は無機もしくは有機酸のアニオンまたは水酸化物イオンであり、ただし成分b)の酸は、成分c)のスルフィン酸、セレン酸またはテルル酸と同一であることはない、で表される化合物である、よりなる群から選択される少なくとも一種との混合物である接着性向上性化合物を含有する、銅合金の表面を処理して高分子材料に対する接着性を向上するための溶液であって、前記溶液がさらに

d)少なくとも100mg/Lの量のフッ化物イオン、
e)5~40mg/Lの量の塩化物イオン

を含有することを特徴とする、前記溶液。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

金属表面と高分子材料との間の接合の長期間の安定性を向上するために、窒素原子を含有し、且つ複素環に硫黄、セレンまたはテルル原子のいずれも含まない5員複素環化合物の少なくとも一種と、
スルフィン酸、セレン酸、テルル酸、複素環中に少なくとも一つの硫黄、セレンおよび/またはテルル原子を含む複素環化合物ならびにスルホニウム塩、セレノニウム塩およびテルロニウム塩、ただしこれらスルホニウム塩、セレノニウム塩およびテルロニウム塩は、一般式Aの化合物である；

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

ここで、AはS、SeまたはTeであり、R₁、R₂およびR₃はアルキル、置換アルキル、アルケニル、フェニル、置換フェニル、ベンジル、シクロアルキルおよび置換シクロアルキルであり、R₁、R₂およびR₃は同じであっても相違していてもよく、そしてX⁻は無機もしくは有機酸のアニオンまたは水酸化物イオンであり、ただし成分b)の酸は、成分d)のスルフィン酸、セレン酸またはテルル酸と同一であることはない、よりなる群から選択される少なくとも一種の接着性促進性化合物との混合物が適用される。

好ましいスルフィン酸は、化学式Bで表される；

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0045

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0045】

上記溶液中における好ましい濃度範囲は以下のとおりである；

硫酸、濃 10 ~ 250 g / L

過酸化水素、30重量% 1 ~ 100 g / L

接着性向上性化合物：

トリアゾール、ベンズトリアゾール、イミダゾール、テトラゾールおよびこれらの混合物 0.5 ~ 50 g / L

プリン 0.5 ~ 50 g / L

その他の成分：

スルフィン酸、セレン酸および／またはテルル酸 0.05 ~ 10 g / L

接着性促進性複素環化合物 0.05 ~ 20 g / L

スルホニウム塩、セレノニウム塩および／またはテルロニウム塩 0.01 ~ 10 g / L

フッ化物イオン 0.2 ~ 25 g / L、より好ましくは 1 ~ 10 g / L、最も好ましくは 2 ~ 5 g / L

塩化物イオン 5 ~ 40 mg / L、好ましくは 15 ~ 25 mg / L

本発明の溶液によって処理された後、銅表面はリーンスされる。その後、例えばホットエアにより乾燥される。

銅または銅合金の表面を有するワークピース、例えばリードフレームは、通常の浸漬装置により処理することができる。